

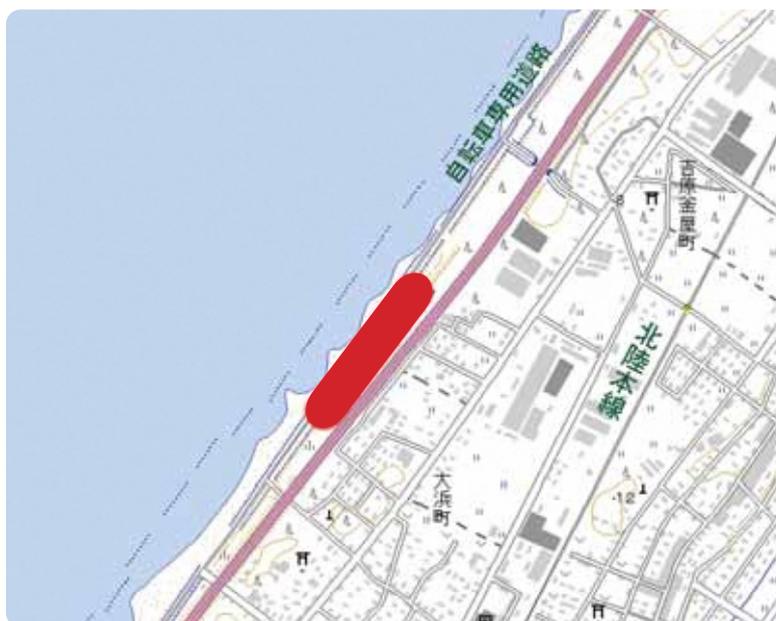
■ 大浜の海岸（大浜町）



■ 環境の特徴

大浜の海岸は、大浜町に面した砂浜海岸で、砂浜には能美市の天然記念物のハマナス群落地があり、その観察のための遊歩道が整備されています。また、海岸線に沿ってサイクリングロードが通っています。ハマナス群落地の周辺には少ないながらハマゴウやハマエンドウなどの海浜植物が生育しており、砂浜の内陸にはイネ科を中心とした草地があります。その草地と北陸自動車道に挟まれた所には、クロマツやエノキなどが帯状に生えています。

位置図





砂浜の背後にはイネ科を中心とした草地在広がっています。



砂浜には少ないながら海浜植物が生えています。

■ すんでいる昆虫の特徴

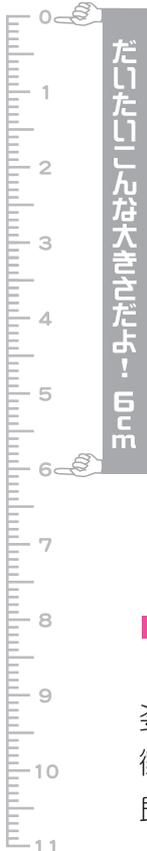
大浜の海岸では典型的な海浜性の昆虫を見ることができます。砂浜にしかすんでいないオサムシモドキやスナヨコバイがすんでいます。また、浜辺に打ち上げられた流木の下を覗いてみると、ハマベハサミムシやヤマトアオドウガネの幼虫を観察することができます。また、明るい草地在が好きなチョウやバッタの仲間が多いのも特徴です。草地在や灌木のある所には、ハラビロカマキリやゴマダラチョウが観察できます。



ハラビロカマキリ



成虫は8月から11月にかけて見られます。



■生態

幼虫の時は腹部を上を曲げた姿勢をとっていることが多く特徴的です。林の縁の日当たりの良い木の上でよく見られます。

■体の特徴

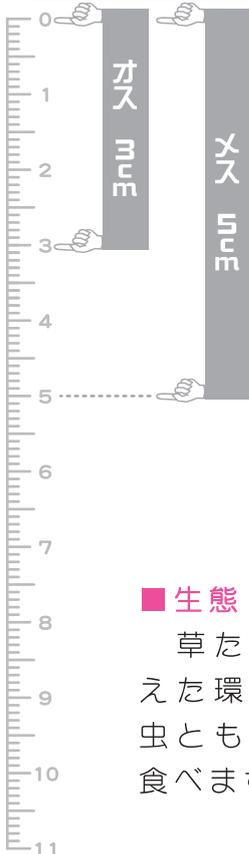
大きさは約6cmで、前バネに白い斑点があることや、前脚の基部に黄色のイボ状の突起があることが特徴です。



クルマバッタモドキ



7月から9月にかけて見られます。



■生態

草たけの短い草がまばらに生えた環境を好みます。成虫、幼虫ともにイネ科の植物を好んで食べます。

■体の特徴

体の大きさはオスが3cm、メスが5cm前後です。背中に白い「く」の模様が1対あるのが特徴です。



ハマベハサミムシ



5月から10月にかけて見られます。



■生態

砂浜に打ち上げられた流木の下に隠れており、他の小さな昆虫などをエサとしています。また、昆虫では珍しく子育てをする習性を持っており、卵を外敵から守ったり、卵を舐めてきれいにしたり、産まれた小さな幼虫にエサを与えたりします。

■体の特徴

体の大きさは約2.5cmで、名前のとおり、お尻にハサミを持っているのが特徴です。



オサムシモドキ



7月から9月にかけて見られます。



■生態

昼間は砂地の地面に穴を掘って隠れています。夜になると砂浜を走りまわって小さな昆虫などを捕まえて食べるという生活をしています。

■体の特徴

大きさは2.5cm前後で、触角の付け根と脚の一部が黄色になっているのが特徴です。



ヤマトシジミ



5月から11月にかけて見られます。



■生態

幼虫はカタバミの葉を食べます。日当たりの良い場所にこのカタバミがあればどこでも見ることができます。一年に5回、発生をくり返します。

■体の特徴

ハネを広げると約2.5cmの小型のチョウです。オスのハネの表側は黒地で中心部が青色ですが、メスは全体が黒色です。オスメスともハネの裏側は白っぽく、黒いはん紋があります。



ハマゴウノメイガ



7月から8月にかけて見られます。



■生態

石川県から発見された個体をもとに新種として記載されました。成虫は海浜植物のハマゴウに卵を産み付け、幼虫はハマゴウの花を食べて育ちます。

■体の特徴

ハネを広げると約2cmで、ハネの地色は白く、前バネに黒いスジが2本走っているのが特徴です。

砂浜の昆虫は砂の中や海岸に打ち上げられた物に隠れていることが多いため、流木や海藻をとりのぞいて探るのがおすすめです。昆虫をはじめとした、いろいろな生き物を観察することができます。



- ・漂着物を起こして、その陰に隠れている昆虫を探そう。



- ・訪花昆虫を観察するには海浜植物の花が多い5、6月に行くのがよいでしょう。



- ・秋になれば、草地にはバッタの仲間がさかんに飛び回っています。

■ 保全のために

砂浜ではその特殊な環境に適応した昆虫が数多く生息しています。ハマゴウやハマエンドウなどの海浜植物を無くさないようにすることと、海岸に打ち上げられたプラスチックなどのゴミを掃除し、流木や海藻など小さな昆虫のエサとなる有機物を残すことが大切です。また、ハマナス群落地の過度な整備は、小動物の生息地をうばいます。